番組審議会
第６５６回

２０２２年1月１７日

■ 審議会の構成　　委員総数　　１０名

委員長	音　好宏			
副委員長	中江有里			
委　員	江澤佐知子	尾縣　貢		
	萱野稔人	喜田村洋一		
	佐藤智恵	長嶋　有		
	藤原帰一	水無田気流		

ＴＢＳテレビ	佐々木	社長
	渡辺	常務取締役
	伊佐野	常務取締役
	岩田	取締役
	瀬戸口	編成局長
	竹内	報道局長
	武石	報道局担当局次長/総合ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ
	宮本	報道局政治部/番組ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ
	中田	編成考査局長
	村田	編成考査局視聴者サービス部長
	天野	番組審議会事務局長

■議事概要

１．審議事項

（1）「報道の日　第2部」

１２月１９日（日）１８：３０～２２：４７放送分

（2）その他

２．事務局報告事項

（１）視聴者からの声について

（２）次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

□取材メモの細部を上手に使っていた。映像を撮りきれなかった部分をストーリー化することで、テレビ報道の新しい可能性を追求し、それに成功した番組だ。

□JNN 報道のクオリティが非常に高いことがわかった。JNN 報道への信頼も増したのではないか。

□視聴者に受け入れられるよう、ストーリーを丁寧に構成した、大変良く出来た番組だが、欲を言えば、もっと驚きが欲しかった。

□YouTube との連動はとても良かった。TBS ニュースの公式チャンネルは面白いと再発見した。

□YouTube のコメント欄など、ネット上の声を紹介する際の、放送上の声に、違和感を覚えた。もともとテクストしかない“ネット上の声”には、そもそも声質がない。声の当て方について、もっと試行錯誤があって良いのではないか。

□スタジオで芸能人が泣くシーンは必要だったのか、非常に疑問が残る。

□硫酸事件では、防犯カメラが犯罪抑止につながっていることは理解した。反面、日常の行動さえも監視されているような怖さを感じた。

□記者メモが捜査結果に結びつくような、捜査に協力しているような印象を受ける場面もあったので、そこは一線を画すべきではないか。

□再現ドラマは様々な評価があるが、少し演出過剰ではないか。

□再現という手法は、報道という点でいえば、少し禁欲的にやる方が、より説得力があるのではないかと改めて感じた。

□コロナ患者の部分は、多くの人が不安や恐怖に直面する中、静謐に演出した、これ以上感動を煽らない抑えた演出が、非常に良かった。

□SNS の時代は、決定的瞬間をおさえるのはメディアだけではない。しかし、その瞬間の意味を言葉と共に伝えられるのはメディアであり、その意味では、凄く意義ある番組だった。

□一年を振り返った第 1 部と、この第 2 部の、「連動性」が少し弱かった。これまでは、米中や日米など、大きな物語を振り返る形だった。大きな視点は、捨てて欲しくない。

＊　ＴＢＳでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。（ＴＢＳテレビ番組審議会事務局）